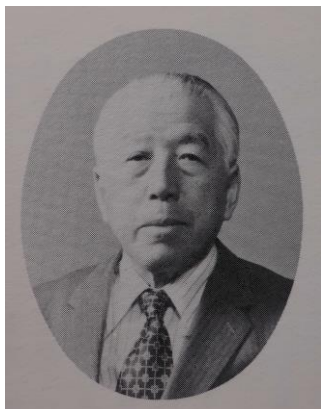


国際化時代での活躍を期待する^(※1)馬城会長 中第 22 回卒 今野 源 八 郎^(※2)

われわれの母校・相馬中学・高校 80 周年史が、関係者の協力で昭和 53 年（1978 年）立派にまとめられている。時の流れは早く、その後、すでに 10 年の歴史を経た。そして今年、母校（1898 年＝明治 31 年創立）が、90 周年の「記念誌」を学校・PTA・生徒会・馬城会の協力で編集されることは歴史的意義が深い。それは、また、今後母校の将来を企画するにも役立つであろう。

顧みて思うと、わが国の明治開国以来の近代化政策の成功には、日本人のモダニゼーション教育に負うところが大きい。東北の城下町に立地する母校の 90 年の歴史は、大都市の中学・高校に対し、教育機関としての特徴をもっている。母校の人材教育史は、後進的であった地域の開発、広く日本の政治・経済・文化の近代化に必要な人材を、全国各地の高校と競争しながら育成する重要な役割を果たしてきた。今後も母校は、日本人の運命を背負う望ましい郷土の太い骨の智的青年を教育する機能を果たしてほしい。

また、学校教育・人間の自己教育に際しては、日本民族としての歴史的反省と前進も必要であろう。

恩師新渡戸稲造博士は、世界の諸民族文化の興亡史を研究し、その多くの最盛期が数十年、長くて数百年程度といわれているのは教訓的であろう。

21 世紀への世界は、諸民族・国民の技術・政治経済・社会文化の寄与と競争によって進む文明社会となろう。それは諸民族の体力・英智・モラル・情を含む人間の総合的な実力の競争社会となる面が強い。

今後の国際化時代に、日本国の長期にわたる歴史的栄光と国民生活・文化の繁栄の為に母校が教育機能を一層充実し、生徒諸君が国際的な視野と実力をさらに涵養し、諸分野で活躍されることを期待してやまない。

(※1) 創立 90 周年記念誌 『紅の旗』 〈1988(昭和 63)年 9 月 2 日発行〉 「ごあいさつ」より。

(※2) 八幡出身。